日本医療機能評価機構認定病院

那珂川病院だより

VOL.63 平成28年5月

〒811-1345 福岡市南区向新町2丁目17-17
TEL.092-565-3531（代）
FAX.092-566-6460
http://www.nakagawa-hp.com
（携帯電話でもご覧いただけます）

病院理念 ― 思いやりそして努力　奉仕そしてよろこび

この地での活動への想い

那珂川病院　院長　下川敏弘

この度の熊本地震で被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに亡くなられた方たちには心よりお悔やみ申し上げます。平成17年の福岡県西方沖地震以来となる九州での大きな地震でした。被災地の早期復興をお祈りいたします。

さて、那珂川病院は昭和34年4月に筑紫郡那珂川町松ノ木に私の岳父である井上繁孝が筑紫診療所として開設したのが始まりです。同年8月には医療法人喜悦会として登録し、２年後の昭和36年6月に医療法人喜悦会那珂川医院と改称しました。昭和39年11月に現在地の福岡市南区向新町（当時は野多目）に48床で那珂川病院として開院しました。

当時の福岡市は周囲の町村を編入し拡大していました。昭和47年4月に福岡市は政令指定都市となりました。昭和51年4月に福岡市医師会は行政区に合わせた各区医師会とB-C会員による勤務医会を発足させ、福岡市南区医師会は今年で40周年を迎えました。当然のことながら当院も南区医師会に発足時から入会しており、昭和54年には今と同じ162床の救急告示病院となり、現在に至っています。

他の区の先生方も同様だと思いますが、私はこの区で活動できて幸せだと感じています。周囲の先生方のご支援のおかげで当院の役割が果たせていると思っています。昭和60年4月に井上が逝去し、大変な時期にも南区医師会の先生方に支えていただいたと伺っております。本当にありがとうございました。

医療は時代とともに進歩し、社会の変化に対応する必要があります。地域包括ケアシステムという言葉で国が表現しているのは、医療・介護・福祉が一体となって地域の人々の生活を支えるサービスの総体と思っています。それは、正に当院が目指しているものです。それぞれの機関・施設がその役割を認識して活動することが重要です。しかし、連携やネットワークなしでは十分な活動はできません。顔の見える距離での連携が大切です。その面からも南区医師会という組織は素晴らしいと感じます。みなさんが地域の患者さんだけでなく、お互い会員のためを思って活動しておられるからだと思います。その一員として今があることを幸せに思い感謝しています。

那珂川病院は医師会員のみならず地域の方々を含め当院職員の信頼を得るために活動しています。そのために必要な要望や意見などはどしどしいただきたいと思います。一度にはできませんが一つずつ実現させていく所存です。みなさんの力をお貸しください。これからもよろしくお願いいたします。

モクレン

緩和ケア病棟での臨床心理士の役割

臨床心理士　紀 日奈子／志岐 信明

現在緩和ケア病棟には、２名の臨床心理士が在籍しており「こころの専門家」として活動しています。病から生じる様々な苦痛や苦悩を、患者さんやご家族がどのように感じ、そして、どんな気持ちで受け入れようとしているのか、こころの視点から考えることが、その役割です。臨床心理士の仕事は、患者さんやご家族に対し、話をお聴きすることから始まります。また、時には言葉のやり取りだけでなく、表情や身振り手振りを手がかりにしながら、ただそっと側に寄り添うこともあります。当院緩和ケア病棟の理念に「ハートフル」という言葉が使われています。私はその意味を、『患者さんやご家族に寄り添いながら、共に悩み、考え、苦しみや喜びを分かち合うこと』であると考えています。厳しさや難しさを感じることもありますが、それ以上に大切な体験をさせていただいているように思います。

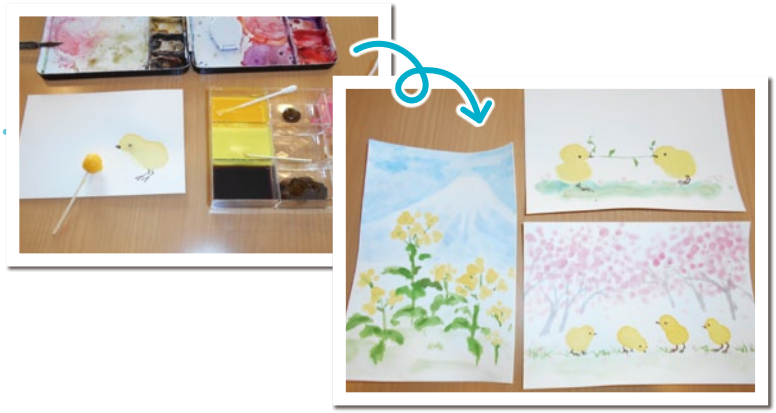
V.E.フランクル（心理学者）は、著書の中で「人は苦悩することで、人生の意味を見出すことができる」と述べています。これまでに出会った多くの患者さんやご家族の方々の中にも、日々変化する現実を受け入れ難い状況にありながらも、ゆっくりご自身のペースで、今までの人生を振り返り、これからの希望や目標を持って日々を過ごしておられる姿がありました。そのお姿から、言葉にならない強さを感じます。

臨床心理士も、緩和ケア病棟のチーム医療の一員として、「ハートフルケア」を実現するため、まずは、少しでもお役に立つことを、できることから始めたいと思います。皆様にとって、少しでもお力になれるよう、これからも努力し続けていきたいと思います。

緩和ケア統計2015年（1月1日～ 12月31日）

入院相談		322件
緩和ケア病棟（定数24床）		
入院件数		268件（223名）
退院件数		266件（223名）
平均在院日数		28日
１日平均患者数		22.3名
在宅ケア		82名
在宅看取り		24名
緩和ケア病棟入院患者　223名の内訳		
年齢		23歳～96歳（平均：74歳）
男女比		128:95
疾患名	肺癌	41
	肝癌・肝内胆管癌	28
	大腸癌	18
	胃癌	17
	膵癌	15
	直腸癌	13
	悪性リンパ腫	10
	胆嚢・胆管癌	9
	子宮癌	8
	咽頭癌	6
	食道癌	5
	乳癌	5
	腎癌	4
	卵巣癌	4
	前立腺癌	4
	その他	36
紹介元の医療機関	九州がんセンター	35
	福岡赤十字病院	12
	福岡大学病院	10
	福岡徳洲会病院	8
	九州大学病院	5
	九州中央病院	3
	その他	41
患者住所	福岡市南区	77
	春日市	46
	那珂川町	36
	大野城市	15
	福岡市博多区	9
	太宰府市	5
	福岡市中央区	5
	福岡市早良区	5
	福岡市城南区	4
	筑紫野市	4
	その他	17

ボランティアだより



今回は、絵手紙のボランティア神谷直子さんを紹介いたします。毎月1回、絵が得意な方はもちろん苦手な方でも楽しめるように、筆で描くだけでなく、スポンジなどを使ってスタンプのように簡単に描けるように工夫してくださいます。また、神谷佳子さん・津田野恵さん・久保洋子さんの３人が交代でお手伝いにきてくださりお茶をいれてくれます。美味しいお茶を飲みながら、会話も弾みます。神谷直子さんの優しい絵が患者さん・ご家族の心をほっこり和ませてくれます。

ボランティア募集

当院緩和ケア病棟では、随時ボランティアを募集しています。趣味・特技を生かして活動されている方、また緩和ケア病棟でご家族を亡くされたご遺族の方など、沢山の方々がいろいろな形で活動くださっています。興味のある方、ぜひ一度お気軽にご連絡ください。

問い合わせ　ボランティアコーディネーター　山下 公子（ひろこ）

緩和ケア病棟 “夏祭り”

オレンジハウス清和のご紹介

菜の花も
咲き乱れ皆の
笑顔も満開

春が来た～

初御代桜～
初めて見ました
感動～!!

ご挨拶

オレンジハウス清和 施設長　鬼塚 俊二

平成26年10月にオープンして1年半が経過いたしました。ご利用者様も順調に増え続けて、28年2月末には90％超えの入居率となっております。病院運営の強みを生かして、看護と介護が充実した施設を目指しています。

また、常に開かれた（開放的）施設でありたいと願い、ご利用者様、そのご家族、ボランティアの皆様、近隣の皆様、その他大勢の方々がいつでも「オレンジハウス清和」に来ていただけるよう心がけております。

ご利用者様の外出、ご家族様の面会は24時間いつでも対応。ご利用者様とのコミュニケーションを重視し、職員全員がご利用者様とできるだけ多くの時間、笑顔で会話ができるような職場づくりをしております。

ご利用者様の施設内での移動も原則自由としております。1階にある私の事務室のドアはいつでも開いており、時々入居者様が訪ねて来られていろいろな話をしていかれます。時には耳の痛いお小言もいただきます。それも今後の施設運営のためにアドバイスと心得、有り難い事だと思っています。

これからもご利用者様と職員全員が1つの家族のように明るく、楽しく生活できるような施設づくりをしてまいります。

行事も充実～

ラーメン大好き

み～んな笑顔＼(^～^)／

ボランティアも幅広く募集中～★

施設入居
デイサービス利用
随時募集中

2016年

診療報酬改定について

那珂川病院　医事課長　吉田 克己

2016年（平成28年）4月1日に2年に1度の診療報酬改定が行われました。今回の改定でまず患者さんにとってインパクトがあったものといえば、大病院へのフリーアクセス制限と食事負担金が1食260円から360円になったことではないでしょうか。これまで日本では大病院から診療所まで特にアクセス制限は設けられていませんでしたが、今回の改定では療養担当規則の改正などにより、**特定機能病院及び500床以上の地域医療支援病院の外来に通院する際は、初診時5000円以上、再診時2500円以上を自費徴収すること**が原則、責務とされました。これにより大病院と中小病院、診療所との機能分化が具体的に進んでいくことになります。当然困るのは患者さんであり、大病院の外来に通院している患者さんは中小病院、診療所へ通院することを余儀なくされるわけです。**食事負担金に関しても1食260円から360円に上がる**ことで月に約9000円程度自己負担が増えます。さらに、**2018年（平成30年）4月以降は1食460円の負担**となることが決まっており、他にも1日320円の居住費（光熱水費）の負担が予定されています。患者さんの自己負担を上げることで在宅医療との公平性を図り、結果的に在宅医療へ誘導しようという国の狙いです。

那珂川病院は、急性期、回復期、緩和医療を病棟ごとのケアミックスで提供しており、2年前の診療報酬改定では、新たに創設された地域包括ケア病床25床を取得、救急医療から在宅医療まで地域に密着した幅広い医療を展開しています。団塊の世代が後期高齢者となる2025年、その後介護人口がピークを迎える2030年、その後の人口減少時代を念頭に置いた国の医療政策は着実に進んでいます。

2018年（平成30年）は医療機関や介護施設にとっては厳しいとされる診療報酬と介護報酬の同時改定が行われますが、この地域の中で近隣の医療機関や介護施設と密接に連携を取り、患者さんが利用しやすい安心できる病院づくりをしていくのが、当院のミッションだと考えています。2年に1度の診療報酬改定は、当院が普段提供している医療が標準化されているか否かのバロメーターともなります。

今後もこの厳しい医療情勢下において、地域のニーズに応え続けることのできる那珂川病院でありたいという思いです。

部署紹介
外来部門

那珂川病院外来部門について紹介させていただきます。

当院は18人の常勤医師と15人の非常勤医師が内科、外科、整形外科、脳神経外科などの一般外来に加え、緩和ケア、糖尿病外来、フットケア外来などの専門外来にも対応しています。

地域のクリニックや施設からの緊急の入院依頼に対応できるよう、日々ベッド調整を行いながら診療にあたっています。また、当院は救急告示病院として2次救急の役割を担っており、昨年は1027件の救急搬入に対応しています。その他、当院には健診センターも設置されており、福岡市の健診や企業健診など昨年は約4600人の健診を行っています。さらに定期的に糖尿病教室を開催し、各専門職種の担当者が熱心に指導を行っています。

このように外来部門には医師の他、老若男女41人の看護師、看護補助者、健診センター事務が、患者さん中心の医療の実践を目標に日々頑張っています。待ち時間などでご迷惑、ご心配をおかけする場面も少なくありませんが、おひとりおひとりに満足した診療を受けていただけるよう努力を続け、地域密着型の外来でありたいと考えています。

皆様とのご縁を大切に頑張っていきますので、今後とも宜しくお願いいたします。

外来師長 **渡辺 留美**

新任医師紹介

外科
髙松 祐治

本年４月より常勤医師として勤務しております髙松祐治です。

私は小学４年生の時に老司小学校に転校し、以後この地元で育ちましたので、那珂川病院で働いて地元に恩返しできることを嬉しく思っています。九州大学を卒業後、第一外科に入局し、大学病院やその関連施設で経験を積んで参りました。

専門は主に胃や腸などの消化器疾患や頚部の甲状腺疾患ですが、内科的疾患も含めて幅広く診療できればと思っています。胃がんは依然として罹患率が高いですし、大腸がんも年々著しく増えていますので、症状がなくても定期的に内視鏡検査を行うことをお奨めします。早期で発見・診断がつけば内視鏡治療で治りますし、進行していても他の臓器に転移がなければ多くの場合は手術で治ります。甲状腺疾患につきましては、頚にしこりや違和感がある方や、甲状腺ホルモン異常と診断された方がいらっしゃいましたら、どうぞご相談ください。

微力ではありますが、少しでもこの地域医療にお役に立てればと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

緩和医療
竹中 理

本年４月１日より那珂川病院にお世話になっております、竹中と申します。主に緩和ケアを担当させていただきます。

緩和ケアは、病気による痛みや身体のきつさなどの肉体的な苦痛をできる限り取り除き、不安や孤独感などの精神的苦痛の軽減を図りながら、患者さんご本人はもちろん患者さんのご家族それぞれにとっても少しでも後悔の無い、『良い時間』を過ごしていただくためのお手伝いをさせていただくところです。

『良い』『悪い』の判断や感じ方は、人それぞれです。そのため、緩和ケアには通常の医療のように『治癒』や『延命』といった絶対的な『正解』はありません。

患者さんご本人やご家族・ご親族とご相談しながら、それぞれにとっての『納得解』をご一緒に探させていただきたいと思います。

患者さんご本人やご家族にとって、緩和ケアが病気と闘う生活の中でのオアシスや休憩所となれるように、できる限りのお手伝いをさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

常勤医師診療担当表

医師名	担当領域
下川　敏弘（院長）	外科・呼吸器外科
大内田　敏行（副院長）	放射線科
吉村　寛志（副院長）	外科・消化器外科
古賀　健資	外科・健診科
熊澤　浩明	外科・消化器外科
福永　昌幸	外科・麻酔科
古賀　善彦	外科・リハビリテーション科
髙松　祐治	外科・消化器外科・甲状腺科
齊田　光	整形外科
竹内　一馬	血管外科・循環器内科
中本　守人	脳神経外科
筒井　伸一	内科・消化器内科
安藤　智恵	内科・循環器内科
藤澤　正寿	内科・腎臓内科・人工透析
立元　貴	総合内科・糖尿病内科
大国　貴史	緩和医療・外科・漢方内科
月江　教昭	緩和医療・循環器内科
竹中　理	緩和医療

【交通】西鉄バス系統番号4番・47番・62番・620番「那珂川病院前」下車すぐ　■駐車場150台

平成28年5月1日現在